

看護小規模多機能介護 グループホーム

医療ニーズの高い高齢者の生活を支える

～ 優つくり事業部が目指す～
医療と介護の支援

私をご報告します!

優つくり事業部 HPはこちら!

優つくり事業部 事業部長 高柳 杏里

奉優会 初の“カンタキ”が本格始動!

看護小規模多機能型居宅介護 (通称: かんたき、看多機) とは、「訪問(訪問介護)」「通い(通所介護)」「泊まり(短期入所)」の介護サービスに「訪問看護」の機能が加わった、介護と看護を一体的に提供する介護保険サービスです。

通い	宿泊	訪問介護	訪問看護
<p>楽しく元気に</p> <p>食事や入浴、レクリエーション等、1日を楽しんで過ごします。</p>	<p>ご家族も安心して外出などリフレッシュ</p> <p>ご希望により、個室でのショートステイを利用できます。</p>	<p>緊急時にも訪問します</p> <p>ご自宅での生活に様々な場面でお手伝いします。</p>	<p>経管栄養、喀痰吸引、在宅酸素、血糖管理、インシュリンや内服管理、尿留置カテーテル、褥瘡、人工肛門、認知症、緩和ケアなど医療的ケアが必要な方も、かかりつけ医療機関と連携して支援します。</p>

実際のご利用例 (Dさま90代 要介護5)

初回サービスプラン	【基礎疾患】	【必要な医療的処置】	終末期のサービスプラン
<ul style="list-style-type: none"> 1回/毎日 訪問介護(排泄管理) 1回/毎日 訪問看護(褥瘡処置、機能訓練、Drの指示にて採血、点滴) 2回/火金 通い(機械浴入浴と機能訓練) 1回/土 宿泊(家族のレスパイトケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 脳梗塞 ● 糖尿病 ● 前立腺肥大 ● 腎臓病 	<ul style="list-style-type: none"> ● 膀胱留置カテーテル管理 ● 褥瘡処置 ● 点滴・採血 ● 排便コントロール 	<p>「何が何でも家で過ごしたい」 看多機を活用した想いの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 月～金 宿泊(輸血・点滴、在宅酸素療法) 1回/土日 訪問介護(排泄管理) 1回/土日 訪問看護(褥瘡処置、機能訓練、Drの指示にて採血、点滴) 土日は家で家族と過ごす 食事制限なし。好物の奥様の天ぷらを食べる

奉優会カンタキの新たな取り組み

コロナ禍の終息が見通せない中、新たな取り組みとして、見守りセンサーや看護師によるオンライン健康チェックを自宅へ導入し、IoTの活用を行い、より“つながる安心”を大切にしたいと考えています。

優つくり見守りセンサー 安否確認サービス
看護師による オンライン健康チェック
MCS導入 医師とリアルタイム連携

グループホームの医療連携への取り組み

生活機能向上連携加算の活用

世田谷エリアグループホーム事業所では1回/3か月の理学療法士による訪問・評価を実施し、その後の月でTV会議による評価を行なっています。自立支援に向けたアドバイスを受け運動プログラムを作成しケアプランに取り入れています。

【連携の流れ】

訪問またはTV会議にてご利用者の状態評価・アドバイス → ケアプランに反映・実行 → モニタリング

理学療法士からの専門的なアドバイスや留意点など伺います
生活の中で取り入れられる動き、楽しくできる活動や体操をサービス内容に組み入れます。
活動内容の振り返り、評価内容の確認

※医療連携先は医療法人社団多聞会(世田谷区)

こんないいことありました!

- 首・肩コリにお悩みのY様
理学療法士がプログラムした“ひとり”でできる体操”を職員が毎朝行うよう声掛けするサービスを提供。一人でも安全に行える内容になった為、無理なく継続できました。
- 痛みが引きました! やっぱり動かないとダメですね。
転倒骨折一週間の連携例
生活の中で取り入れられる運動に加え、入浴時の安全な移動動作や福祉用具の選定などアドバイスを受け、職員も不安なく介助することができました。
- 安心して入浴出来るようになりました。
安心して入浴出来るようになりました。

ショートステイ

科学的なケアマネジメント 日本版BPSDケアプログラム × 専門的な認知症ケア ユマニチュード

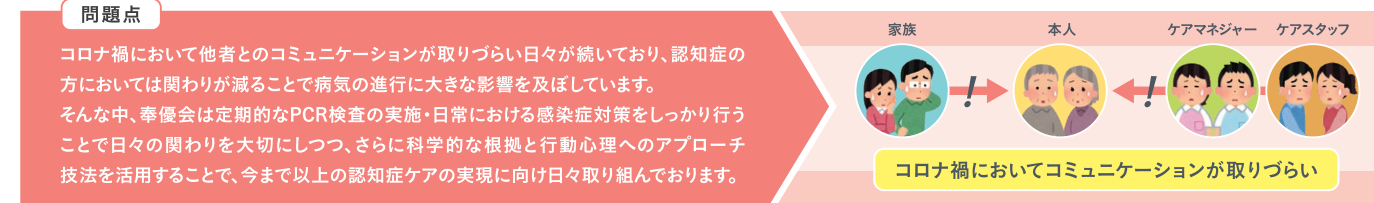
～ 認知症の人・介護者の笑顔をとどめし在宅生活継続を支えるショートステイの実現～

私をご報告します!

白金の森 Facebookはこちら!

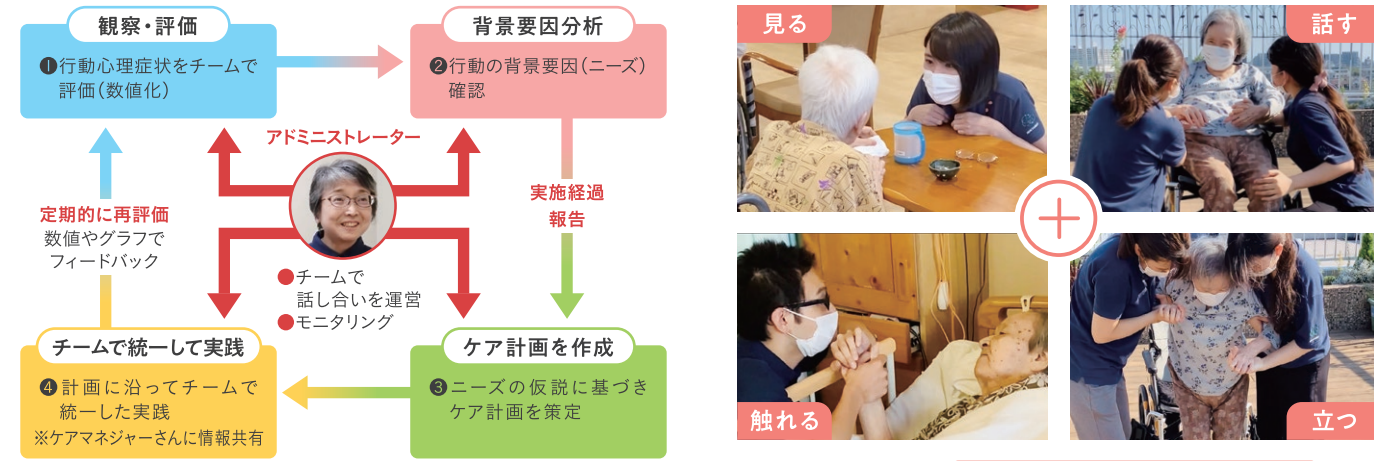
東京都港区
港区立特別養護老人ホーム白金の森
施設長 成田 寛一郎

認知症の利用者を支援するうえで、「ショートステイを利用してから認知症が悪化した・・・」という経験をしたケアマネジャーさんも多いのではないのでしょうか。認知症の方にとって、環境変化は大きな負担となりますが在宅生活を継続するうえでショートステイは主介護者の休養等、在宅生活を支える重要なサービスです。今回はショートステイ利用という環境変化があっても奉優会だから出来るコロナ禍での認知症高齢者へのBPSD軽減に向けた取り組みの実践例をご紹介します。



解決への取り組み

- 01 認知症高齢者のBPSDを可視化し、チームで共有一貫したケアの提供**
- 奉優会では、行動・心理症状に対する日本版BPSDケアプログラムを導入しております。①行動・心理症状の評価、②背景にあるニーズの仮説、③ニーズに合わせたケアの計画、④計画に沿ったケアを実行、の4ステップにて沿って行います。そしてニーズの仮説が正しかったか検証するために、オンラインシステムを使って、行動・心理症状の変化を「見える化」します。
- 02 「その人らしさ」を取り戻すケア、ユマニチュードの実践**
- ユマニチュードケアはいくつもの技法を用いて、あなた(認知症高齢者)が大切な存在であることを伝えます。BPSDケアプログラムで見える化した行動・心理へ、ユマニチュードの哲学、技法を使ってアプローチします。



実践例

A様 男性
認知症進行により意欲低下があり、覚醒状態が悪い状態声掛けに拒否することも頻回にある。

取り組み内容
BPSDケアプログラムにより行動心理症状が見える化し、昼食後に覚醒していることが多いため判明。ユマニチュードの技法である「立つ・歩く」を実践。

取り組み結果
ご利用者から自然に笑顔や発語が増え、不穏や拒否の軽減、廃用性の予防に。介助者側ではコミュニケーション等ご利用者との接する時間が増えることで信頼関係の構築、介助同意が得やすくなり介護負担の軽減に繋がりました。

NPI評価※ 23点 → 12点

※NPI評価：認知症患者のBPSDの頻度と重症度および介護者の負担度を数量化することができる神経心理検査。BPSDなしが0点。点数は0～135点

安心で豊かな、福祉サービスをあなたに。

For You Care Lab vol.2

フォーユーケアラボ

2021 AUTUMN



“Withコロナ”のCS戦略特集



特集1 地域包括支援

コロナ禍でのネットワークづくりの取り組み



地域包括支援事業部
統括課長 内藤 麻里

私をご報告します！

新型コロナウイルスの影響で、従前のような多人数が集まる事業や集いの場は中止や小規模化せざるを得ない状況となり、今まで構築してきたつながりが作りにくくなってしまいました。そのような状況下、つながりを途切れさせないシームレスな連携を模索し、取り組んだ事例をご紹介します。



川柳を通したつながり作り～奥沢地域包括支援センター～

奥沢地域包括支援センターでは、コロナ禍で自宅で過ごす時間の多い高齢者の皆様に、楽しみを持っていただくこと、川柳の募集を始めました。高齢者の個別訪問時や地域のサロン等の活動の場で周知活動を行うことで好評いただき、今では毎月50作品前後集まるようになりました。皆様の作品は、ホームページや広報紙、受付窓口に掲載しております。川柳を通して、外出の機会を作り「地域へとつながる」これからもコロナに負けないネットワーク作りを目指していきます。



Zoomによる医療相談の開催～霞が丘地域包括支援センター～



霧が丘地域ケアプラザでは、コロナ禍でも感染の心配なく、安心して協力医に相談できるよう、Zoomでの医療相談を開始しました。相談者の方からは、「顔を見ながら話せて安心した。」また協力医からも「表情や、お薬手帳などを見ながら行えるのでわかりやすい。」と大好評でした。これからも地域の皆様の生活にお役に立てるよう努めていきます。



オンライン併用区民向け講座の開催～中村橋地域包括支援センター～

中村橋地域包括支援センターで運営している常設型カフェでは、地域の皆様にカフェの存在が少しずつ根付いてきたところでした。現状、コロナ禍で参加人数が定員の半分に制限されているため、介護予防などの講座や交流イベントに多くの皆様に参加できるよう、オンライン併用の区民向け講座を開催しました。オンライン併用により、普段より若い年齢層の方にもご参加いただくことができたことが大きな発見でした。今後も、会場でもオンラインでも参加していただけるハイブリッドな運営で、地域の皆様の元気と安心に貢献していきます。



Withコロナのこれから～地域でつながり続けるために～

地域包括支援センターは、自宅にしながら地域とつながれる川柳の取り組み・オンライン相談・感染対策を講じながらのハイブリッド講座など、コロナ禍でもつながりを続けるために、地域の皆様とアイデアを出し合い、協働しながら、これからもニューノーマルな取り組みを続けていきます。



特集2 高齢者福祉センター

ニューノーマル時代における公共サービス事業



東京都板橋区
板橋区立仲町ふれあい館
館長 井上 麻美

私をご報告します！

公共サービス事業部は、各市区町村より委託を受け、高齢者福祉センター、区民センター、就労支援、ファミリーサポート事業等に携わっています。今回は、当法人で10年ぶりに指定管理運営を再開した仲町ふれあい館の事例を交え、新しい生活様式に適した活動拠点の仕組み作りをご紹介します。



現在の注力ポイント！
・新型コロナウイルス感染症対策
・フレイル予防等オンライン事業
・安全で快適な環境整備
・情報弱者対策
・人材育成・働き方改善

取り組み1 地域高齢者の居場所づくり

仲町ふれあい館は、区内在住の60歳以上のご利用者が、お気軽に心地よく、健康増進や介護予防・趣味教養や文化活動、社会参加活動等にご参加頂けるよう環境改善に取り組んでいます。



非接触検温・消毒機設置
安心安全な明るい受付窓口



PC操作に慣れ親しんで
頂けるパソコンコーナー



安らぎのBGMが流れる
リラククスコーナー



大切な時間が蘇る
懐かしの喫茶風装飾

取り組み2 オンライン事業・地域連携事業の促進

現在は、ニューノーマルな時代に相応しい事業展開として、当法人のスケールメリットを活かし、オンライン講座や、通信講座の提供を促進しています。9月には、「ZOOMで100人体操」(公共サービス事業部合同開催)を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し大盛況でした。

他事業所
ノウハウ活用

- *スマートフォン・タブレット教室
- *ZOOM活用オンライン講座
- *公式LINEアカウントによる情報発信

WEBで
250人参加!

ココロは繋がってる♪コロナ禍における『新たな事業』の実施

「オンライン講座」の実施
自宅にいても、気軽にフレイル予防!
体操
脳トレ
ポイストレ・発声

「通信講座」の実施
自宅にいても、趣味、教養の充実!
川柳・俳句
大人のペン字
語学

取り組み3 地域活動拠点として、生活の質向上の取組み

当館では、地域包括支援センター、デイサービスセンターと毎月のミーティングで日常生活に不安が見られる利用者情報の共有や地域課題への対策などを検討しています。

併設・近隣事業所
責任者ミーティング

- ・利用者情報、地域課題の共有
- ・課題対策、連携事業計画の検討
- ・ご利用者、地域と関係構築
- ・地域資源の活用 など



特集3 デイサービス

進化するハイブリッド型デイサービス



通所事業部
事業部長 窪田 和樹

私をご報告します！

通所事業部では、保険外のニーズにも柔軟に対応する「公益型混合介護サービス」と、幅広い年齢層を見据え、タブレットやWi-Fi等を積極的に導入した次世代型プログラムの展開(ICTの活用)。客観的な根拠に基づいた介護を実践することで、自立支援や重度化防止を図る「科学的介護」を3本柱とし在宅生活継続を支援します。

01 公益型混合介護(独自のボランティアサービス)

ご利用者との日々の関りの中で、個々の困りごとを抽出し、居宅事業所と連携をとり問題解決を目指します。通常のサービスに加え、送迎時の居室内介助、通院や服薬管理、夕食提供、衣類管理等、その方が必要とするサービスを個別のかつ無償や低額で行います。



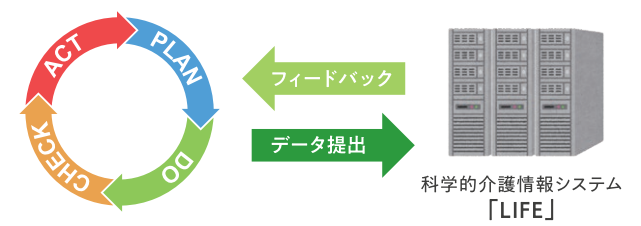
02 ICTの活用

従来のレクにITを掛け合わせることで、「喜び」や「楽しみ」という体験を提供し、「新しいカタチの過ごし方」の提案で意欲の向上や自立支援を促します。また、Zoom等を活用することで、遠方のご家族も担当者会議や施設見学に参加でき、安心の提供や信頼関係の構築、サービス向上にも寄与します。



03 科学的介護(LIFE)の活用

利用者の身体状況や介護サービスに関する情報を「LIFE」へ提出することで、データ解析によるフィードバックを受けます。それにより、利用者の状態やケアの実績変化等を踏まえた計画書の改善を行い、データに基づく更なるPDCAサイクルを推進しケアの質の向上に繋がります。



ハイブリッド型デイサービス
公益型混合介護 ICTの活用 科学的介護(LIFE)の活用

3本柱で進化したハイブリッド型デイサービスが実現!

これらのノウハウとサービスの多様性を持つことで、誰一人取り残すことなく、在宅生活を望むすべての方を支援します。既存のデイの役割という概念を取り除き、変わりゆく時代の中で、社会福祉法人としての専門性を活かし、地域に根付いた「地域と共に生きるデイ」を目指します。

令和3年8月2日 「奉優デイサービス中野」OPEN

旧奉優デイサービス堀江が生まれ変わりました!

通所介護+敬老館+居宅介護支援事業、三つの事業を併設 ～各サービスが連携することで、共生社会を創造する～

奉優デイサービス中野は、木材を使用しカフェの様な雰囲気の中で、上記3本の柱を実施してまいります。入浴設備については、どのようなレベルの方も対応できる設備になっており、入浴を通して機能訓練・自立支援を行い、ご自宅での入浴も応援してまいります。自主活動として、食事作りによる交流や作業療法も実施し住み慣れた在宅生活継続をサポート致します。その他、敬老館と居宅事業所を併設していますので、元気高齢者から支援の必要な方まで、中野地域の方々の相談窓口となること、通所・包括・敬老館連携による交流なども行い地域の包括ケア拠点として活動してまいります。

